

令和5年度小学校教科担任制

廿日市市立 大野東小学校



<実施学年>

5年生 4学級(2学級間)

外国語科・国語科(書写) ⇔ 社会科

6年生 4学級(2学級間)

国語科 ⇔ 算数科

教科担任制推進教員 理科

<目標>

① 学力の向上

- ・標準学力調査において全国比+2ポイント以上
- ・児童アンケート
「教科担当で学ぶことで、授業内容がよくわかるようになりました」とてもあてはまる50%以上

② 多面的な児童理解

- ・教職員アンケート
「担当する学級児童について、日常的に高学年の教員と情報共有ができています」とてもあてはまる70%以上

③ 小・中学校の円滑な接続

- ・児童アンケート
「中学校での教科担任制に対して、不安がなくなりました」とてもあてはまる45%以上

④ 教師の負担軽減

- ・教職員アンケート
「指導教科の減少による教材研究の時間確保の業務改善につながっている」とてもあてはまる55%以上

①学力の向上

(成果)

<校内研修記録より>

- ・教科担任同士で指導内容・指導方法の深い部分まで話し合える。(教材研究)
- ・複数学級を指導するので、1回目に難しさを感じたことを次の指導で修正できる。

<アンケート結果より>

- ・児童アンケート「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよくわかるようになりました」肯定的評価87.7%

(課題)

- ・全国学力・学習状況調査及び単元テストの結果から
「知識・技能」は目標値を達成しているが、「思考力・判断力・表現力」に課題がある。

②多面的な児童理解

(成果)

<校内研修結果より>

- ・各児童に係る教師が多人数になり情報交換することで児童理解が深まり、学級経営にまで結び付いている。
- ・児童が担任に言いにくいことを相談することができていた。
- ・担任が見えないところでの、児童の友達同士の間関係が分かる。

<教職員アンケート>

- ・「担当する学級児童について、日常的に高学年の教員と情報共有ができています」肯定的評価100%

(課題)

<校内研修の結果より>

- ・担任外の児童の名前と顔が一致しない新年度は、個別対応や細やかな評価をすることが難しかった。

③小・中学校の円滑な接続

※今回校内研修にも、児童アンケートにも顕著な意見・回答がない

④教師の負担軽減

(成果)

<校内研修>

- ・教科を絞って指導するため、教材準備にかかる負担が軽減する。
- ・同じ教科の担当者同士の連携をとることができ、安心して授業に臨める。

<教職員アンケート>

- ・指導教科数の減少による教材研究の時間確保の業務改善につながっている」肯定的評価88%

その他難しさを感じること

- ・宿題を担当が見るか、担当が見るか
- ・課題をどうやりきらせるか、個別指導
- ・保誰者への説明、所見
- ・担当する教科の時間数の調整
- ・時間割の編成(特別支援学級、通級指導教室、教科担任の時間割、グラウンドや体育館使用等の調整)、また急な変更の難しさ

課題を解決するために

<校内研修>

- ・ 教科担任制のあり方を学校として整理し、共通認識をもって取り組む。
(何年生から行うか、どの教科がよいのかなど)
- ・ いま実際に教科担任制で授業を行っていない学年も、「時間内にめあての学習をやりきる意識を教師も児童ももつ」「学年で他のクラスの先生・児童の交流を仕組む」「学年内で教科担当を決め、学年内の指導推進や学習プリント作成などを行う」などを行い、意識を高める。

今後

- ・ 「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・ 校務支援システムの活用
- ・ 中学校との連携

